

おおさかうみち
大坂上道遺跡
 (阿賀町大字西字大坂上道西1827ほか)

大坂上道遺跡は阿賀野川左岸の段丘（西山段丘）上に立地し、標高約84～88mを測ります。一般国道49号揚川改良道路建設工事に伴い、4月から8月の予定で発掘調査を行っています。

現況は、植林による杉林が広がっていますが、以前は畑地として利用されていたといえます。遺跡南側の高位段丘面では、磐越自動車道建設工事に伴い平成4・5年に発掘調査を行いました。今回発掘対象地点は、新潟市よりの地区（西地区）と福島県よりの地区（東地区）に分かれています。この度は、西地区について紹介します。

5月初旬に開始した本格的な発掘調査で、西地区全域に鹿瀬軽石質砂層の堆積（福島県

の沼沢火山噴出物の二次堆積層で約5,000年前のもの）が認められ、その上層から縄文時代中期初頭の遺物が出土し、遺構を確認しました。調査区の地形は南西から北東方向に向かって傾斜し、東側の低位面で4筋の自然流路が検出されました。それに対し、遺構は西側の高位平坦面で検出されています。

遺構は土坑13基、性格不明遺構2基、焼土4か所などが検出されました。特に注目される遺構として、SK15は南北方向に長い楕円形に掘られており、南側に入れ子状の一括土器及び北側に大きな石が置かれています。検出状況から甕被葬の墓坑ではないかと考え、現在調査を進めています。このほか、石だけが置かれた土坑も確認されており、これらも墓坑ではないかと考えています。遺物は縄文時代中期初頭の土器、石器のほか、土偶、三角形に加工された石製品、石製円盤など注目される土製品・石製品が出土しています。

今後は西地区の下層、及び東地区へと調査を進める予定です。調査の進展に伴い、この遺跡の性格が明らかになってくるものと期待しています。（桐原雅史）



遺跡遠景



SK15



出土遺物